

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
(分担) 研究報告書

抗CGRP抗体治療による中枢神経感作への影響に関する研究

研究分担者 竹島多賀夫（富永病院 脳神経内科・頭痛センター）

研究要旨

片頭痛発症抑制薬であるgalcanezumabは血液脳関門を通過せず、末梢神経が作用の中心と考えられているが、本薬剤の中枢神経感作改善効果についてgalcanezumabによる片頭痛治療を行った患者を対象に中枢神経感作問診票を用いて検討する。

研究協力者

團野大介（富永病院）
石崎公郁子（富永病院）
菊井祥二（富永病院）
今井 昇（静岡赤十字病院）
北村重和（甲南医療センター）

A. 研究目的

Galcanezumab治療により片頭痛の中枢神経感作が改善するかどうかについて検討する。

B. 研究方法

通常の保険診療内で片頭痛に対してGalcanezumabによる治療が適応になった患者について、妥当性の検証された中枢感作問診票を用いて治療前後の変化を評価する。

（倫理面への配慮）

倫理審査委員会で承認された説明文書を用いて十分に説明し、参加の同意を得る。

C. 研究結果

Galcanezumabは、治療開始3ヶ月後から中枢神経感作を改善した。また、その効果は治療開始6ヶ月後まで持続した。

D. 考察

Galcanezumabは、血液脳関門（BBB）を通過せず末梢での作用が中心の薬剤であり、中枢感作改善効果が直接効果か、末梢からの刺激入力減少に伴う二次的効果かについては今後の検討課題である。

E. 結論

Galcanezumabは中枢神経感作改善効果を有する。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Katsuki M, Shimazu T, Kikui S, Danno D, Miyahara J, Takeshima R, Takeshima E, Shimazu Y, Nakashima T, Matsuo M, Takeshima T. Developing an artificial intelligence-based headache diagnostic model and its utility for non-specialists' diagnostic accuracy. Cephalgia. 2023;43(5):1-13.

2) Takeshima T, Ueda K, Komori M, Zagar AJ, Kim Y, Jaffe DH, Matsumori Y, Hirata K.

Potential Unmet Needs in Acute Treatment of Migraine in Japan: Results of the OVERCOME (Japan) Study. Adv Ther. 2022;39:5176-5190.

3) Takeshima T, Nakai M, Shibasaki Y, Ishida M, Kim BK, Ning X, Koga N. Early onset of efficacy with fremanezumab in patients with episodic and chronic migraine: subanalysis of two phase 2b/3 trials in Japanese and Korean patients. J Headache Pain. 2022;Feb.9:23(1):24.

2. 学会発表

Fremanezumab : Evidence in Japan
第63回日本神経学会学術大会